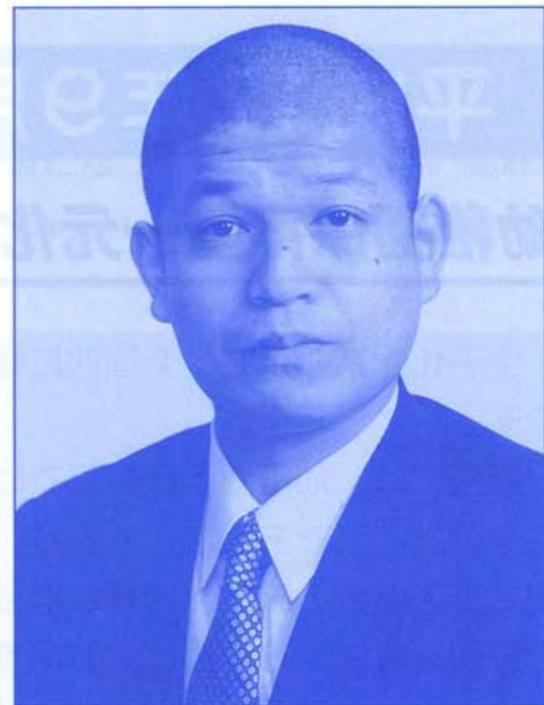


よしかわ通信

E-mail kyudaiji@aqua.ocn.ne.jp

りん どう
凛 道



発行

高萩市議会議員

よし かわ どう りゅう
吉川道隆

高萩市安良川686
TEL 0293-24-0833
FAX 0293-22-3340

錦秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素はひとかたならぬ御指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

9月議会は、平成16年度の決算を行い、例年どおり、苦しい財政状況となっております。ごみ問題についても、なかなかいつまでも解決の糸口が見つからず、日立市との契約の期限が迫りつつあります。何とか、うまく解決できるよう、議論を重ねていかなければなりません。なかなか進まないという現実には、執行部の進め方に問題があるのではないとも思われます。どこに建設するにしても、予定地の地域住民に対する、誠意ある態度が見られない限り、計画を発展させること望まれません。

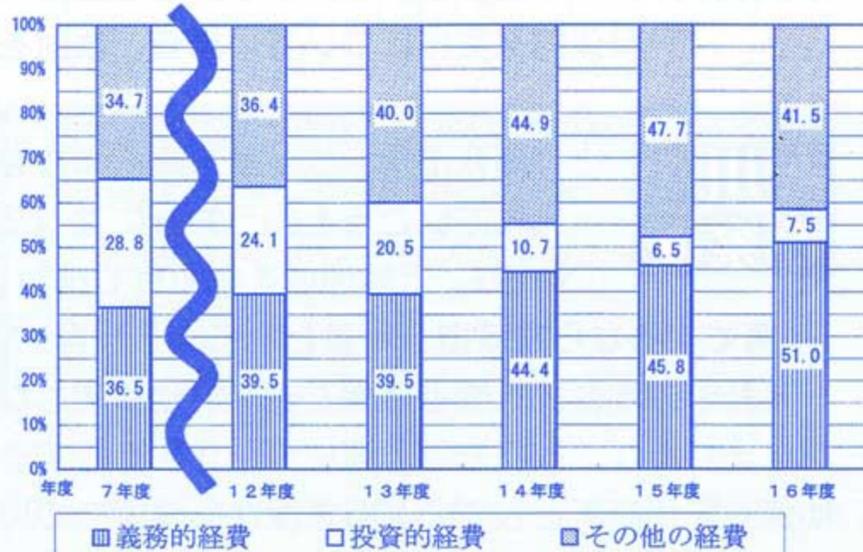
今後とも、私なりに最善の努力を尽くしてまいりたいと思っております。皆様方の御理解と今後の御協力および、御意見、御指導、御要望をよろしくお願い申し上げます。

高萩市の行財政改革について

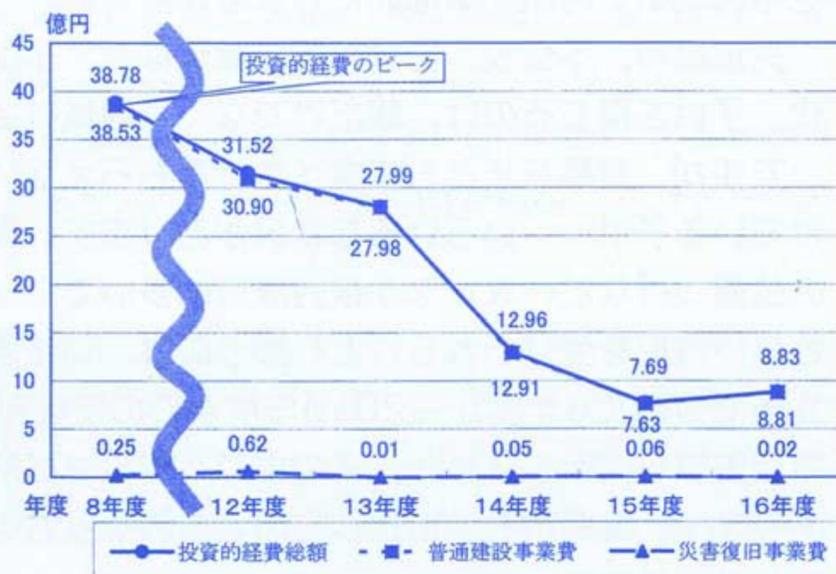
平成16年度の決算書が議会に提出されました。市税等の収入未済額がかさみ、収入が見込まれない一方、人件費等、義務的経費の割合が多い割りに、事業に投資することはできないという現状であります。下記のグラフのように、人件費、扶助費などからなる、**義務的経費の割合が、年々膨らみ、平成16年度では51.0%**にまで達しております。このことは、**民間の企業ならば考えられない状態**だそうです。18年度は7人の採用、下水道組合より8人の受け入れで、15人の増になります。義務的経費が更に増加します。

先日、テレビで福島県矢祭町の町長がお話していた中で、「**本当にやる気があれば何だってできる。**」と言われていました。矢祭町では、行財政改革を行い、町長の給与は3割カットし、総務課長と同じレベルまで下げ、議員数は従来18名だったところを10名に減らしているそうです。節約しても、住民サービスが低下するようでは困ります。何といたっても、職員の意識とモラルの向上です。首長である市長が、自ら、改革の意識をしっかりとって、職員、市民の先頭になって引っ張っていただけるようなまちづくりを進めていただきたいと思います。

【性質別構成比の推移】



【投資的経費の推移】



平成17年9月議会

一般質問

幼稚園保育園一元化について

少子化が進む現在、全国的に様々な施策がとられているところでありますが、この「幼保一元化」もその一つです。

厳密には、幼稚園と保育所では、本来の機能と目的は異なっており、所轄も幼稚園は文部科学省、保育所は厚生労働省と別であることもあり、国の方針としてもなかなか進まないのは現実らしいですが、少子化により幼稚園では入園者の確保が困難となる一方で、夫婦共働き、核家族が増え、保育所の待機児童は増加しています。この矛盾を解決するために、利用者の立場から言っても、また経営の合理化を考えるうえでも、幼保一元化は、非常に有効な方策とされ、国をあげて検討中であり、**幼保一元化につながる幼稚園での「預かり保育」について、県内では、平成16年度、公立で18.9%、私立では99.5%の幼稚園で実施しています。**預かり保育とは、幼稚園の通常の指導時間のあと、夕方5時、6時まで、延長して子供を預かる制度です。

今回の補正予算の中で、幼保小連携モデル事業に関する経費として40万円あがっていたので、どのような事業なのか？ 幼保一元化につながるようなものか？ 質問しました。また、現在高萩市では何か計画があるのか？ 確認しました。

教育長答弁▶ 幼保小連携モデル事業とは、高萩小学校と第一幼稚園、高萩保育所が研究機関として指定され、取り組んでいる研究で、幼児が適切な教育環境のもとで心身ともに健やかに育ち、小学校にスムーズに適應できるよう、連携、接続の強化改善を図り、幼児教育の一層の充実を目指すものであり、即、一元化につながるものではありません。

高萩市においては、施設、職員、保育内容、保育時間の問題など十分な検討が必要です。延長保育も課題は多いが、検討できればと考えています。

市長答弁▶ 一元化することにより、管理運営コストの削減ができ、事務の簡素化、効率化も期待できます。具体的な実施について、調査、検討をする必要があると考えております。

吉川の
考察▶

高萩市は、ウィザス高等学校を受け入れるのに当たって教育特区の申請をし、教育に力を入れていこうという方針になったということでありました。乳幼児の健全な育成、教育についても、近隣地域を先駆けて検討して欲しいと思います。まちの魅力付けのためにも、

「子育てするなら高萩市」と言われるような自治体にしていくことで、市の活性化が見込まれると思います。

高萩市の場合、入園者確保できない幼稚園もないし、保育園待機児童もいませんから急を要するわけではありませんが、政府では急速に少子化が進行する中、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ総合施設をつくる、幼保一元化施策として2006年度から全国での導入を目指しているそうです。急に幼稚園、保育園を一緒にするといっても、施設の問題、職員の確保の問題など、検討することは多いと考えられますが、それぞれの良さを取り入れた、統合的な育成指針によって、市民のニーズに応じた子育て支援ができるような組織作りを考えていく時期ではないでしょうか。

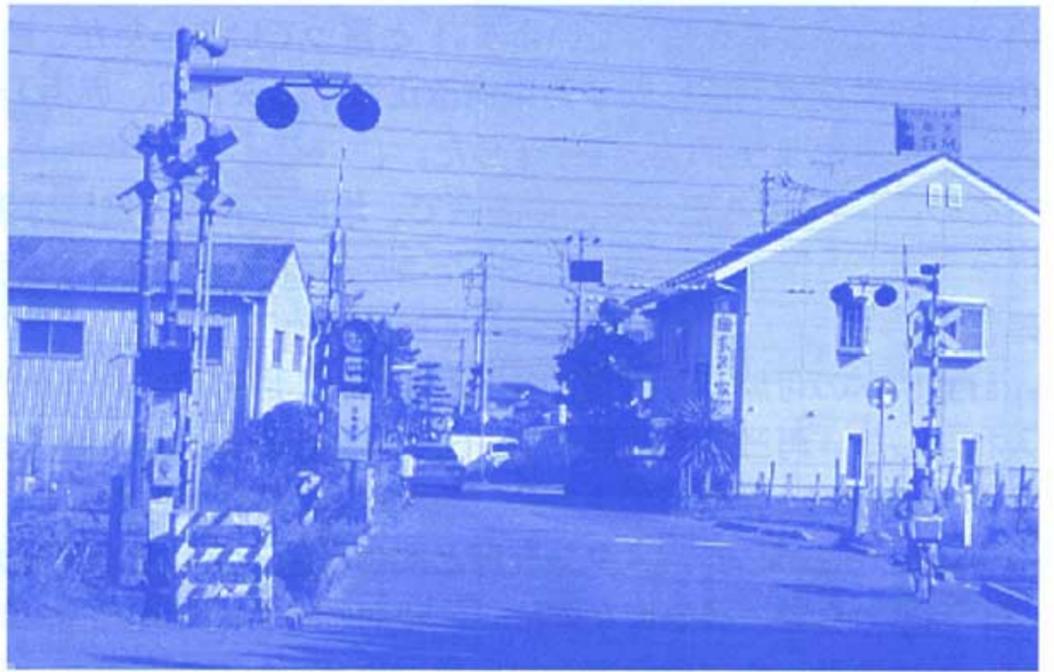
児童虐待、不登校、犯罪の低年齢化など、子供たちを取り巻く社会環境は、ますますひどくなっていく現代、子供を育てるのは、親だけでなく、地域社会の責任だと思われまます。きちんとまっすぐに育つ子供はいいですが、食事をまともに食べさせてもらえない子供、愛情をもったしつけを受けていない子供、虐待を受けている子供……いろいろな状況があります。国からの明確な指針が出てこない従来幼稚園、保育所等の位置づけなど、なかなか検討課題は多いでしょうが、人格形成において重要な時期である乳幼児が、ふさわしい育児を受けられることを願うのは、幼稚園であろうが、保育所、保育園であろうが同じはずです。日立市でも2006年度から2010年度までの市後期基本計画素案があきらかにされ、少子高齢化に対応すべく、重点施策を明示しました。その中で、待機児童解消を狙って、保育体制を確立するということがあげられております。高萩市も、市としての独自のやり方を創意工夫して、より一歩進んだ検討がなされるように期待したいものです。

雨天時における市内道路状況の整備について

先日の台風15号では、九州、東京などで集中的な豪雨に見舞われ、大変な被害となっております。幸い高萩では大きな被害は見られませんでした。今後のことを考えると、災害対策はきちんとしておかなければならないと強く痛感いたしました。

高萩市において、一時的に強い雨が降っただけで、通れなくなる場所がいくつかあります。市内でどれくらいそういう場所があるかどうかを把握しているか？ また、それらにどう対応しているのか？ 質問しました。

市民の方々に、市道1401号線、浜野町の踏切のところを何とかしてほしいといわれております。福田薬局さんのところから、旧日本加工紙にJRで接続しているレール二本のところまで、雨のとき、水びたしになってしまい、通れません。あの踏切は、中学生の通学路になっていますし、陸橋や架線橋を通れないお年寄りなどが利用している大切な通路です。何とかしてほしいと、中学生の父兄やお年寄りから何度も言われております。



また、もう一つは、手綱地区の市道110号線の新しくサンユーができた北口になるのでしょうか、かんべ歯科さんのところから、緑色の壁のマンションのところまで、近辺も雨になると水が溜まってしまい、歩行者は通れないそうです。よく見ると、U字溝もなく、水の流れるところがありません。したがって、水はけが悪く、すぐ溜まってしまいます。周辺住民は非常に困っているそうです。新しくサンユースタアができ、通行者も増えています。

早急に対応していただく様、要望しました。

建設経済部長答弁▶ 現在のところ、18ヶ所くらい把握しています。状況を把握しながら、年次、実施計画を立てて対応しています。今後の財政状況を踏まえて検討します。

浜野町の踏切のところは、昨年、JRの用地の中に、排水路を新設したが、非常に延長が長く、縦断勾配がとれないため、うまくいきませんでした。JRの線路の下を横断するような排水路をつくるように検討しています。

サンユーのところは、確かに側溝がありません。現道路敷の中で側溝ができるか検討します。いずれにしてもすぐには解決できませんが、そういう方向で検討していきたいと考えています。

吉川の 考察▶

予算的に難しい部分もあるかと思いますが、万が一、災害があった場合に受ける被害をよく想定し、市内の危険箇所を洗い出して、順に整備していく必要があると思います。

新しい道路の整備も必要かもしれませんが、今ある道路が危険なら、優先順位を考えていくべきではないでしょうか。

ゴミ処理施設の建設について

6月議会・7月臨時議会で市長は、「堆肥化施設と炭化施設をそれぞれ適正な処理能力を整備し、過大とならないようにして、2つ作りたいと考えています。施設建設については、高萩市には赤浜TK1以外には出来る場所がありません。この提案が通らないなら、高萩市のごみ処理システムというものはしばらくの間できないのではないかと悲壮感を持っています。」と言っていました。結局、臨時議会の結果、執行部から出された、廃棄物の処理および再利用に関する条例改正案が否決され、赤浜TK1に炭化処理施設と高速堆肥化施設を建設する調査等の経費が取り下げになりました。

その後、10月4日の全員協議会で、堆肥化施設の建設は困難であるという結果になりました。執行部としては、堆肥の処理を引き受けるはずだった業者ジーセブンが、受託を辞退したことにより、出来た堆肥の処分先が確保できないとの理由を強調されているようです。

日立市への可燃ごみ処理の委託契約が11月末で切れるため、あと一年限りという条件付で契約の延長を申し入れました。再三の委託延長に、日立市としても受入れを渋っているようです。延長できたとしても、あと一年、平成18年の11月までで、19年度以降は、委託継続をしないこととなります。

今後の計画として、メタン発酵と炭化を組み合わせた方式か、炭化のみの方法で処理するかなど、コンサルタントと協力して、計画案を作成し、検討していくことになっております。メタン発酵施設で処理すると、ダイオキシン類の発生や二酸化炭素排出量は現状よりも削減され、発酵により電力を得ることもできますが、建設費がかかるのと、今のごみ分別に加え、新たに生ごみを分別することが必要となり、市民の皆さまのご協力が必要となります。

ごみ処理基本計画で定める、高萩市におけるごみ処理の基本理念と基本方針は次のようになっています。

基本理念

「地域内の資源を有効に利用する循環型社会の形成」

基本方針

- 1、発生・排出抑制（リデュース）、再使用（リユース）の推進
- 2、再利用（リサイクル）システムの構築
- 3、地域内処理の推進
- 4、効率的なごみ処理事業の推進
- 5、住民・事業者・行政の役割の明確化と実行

吉川の 考察▶

ごみ処理方式については、いろいろ検討されており、循環型社会の実現に向けて素晴らしいことだと思いますが、では、なぜこれらの案が毎回毎回、実現されないかということを考えているのでしょうか？問題は、処理方式云々というよりもむしろ、建設予定地と、周辺住民に対する誠意ある対応が欠けているということだと思われます。前回は市長は「作るとしたら赤浜。説得すれば必ずわかってくれる。」と強調されておりましたが、結局失敗。「どんな素晴らしい施設であろうと、もう二度と作らないという約束は約束、何があっても作らせない！」というのが、赤浜の住民の気持ちだと思います。その気持ちを十分理解して、もっと足を運んで説明、説得するような誠意を見せるとか、別な建設地を考えると、そこを解決しないことには、この問題はいつまでたっても堂々巡りになるのではないのでしょうか!! 誰だって、自分の家の近くにごみ処理場が来るといいなんていう人はいないでしょう。しかし、どこかには作らなければいけない、デメリットを最小限に抑え、何か周辺住民に対するメリットがあるように考慮し、ご理解いただけるように、誠意をもって対応、検討していくべきであると私は考えております。

どんな立派な理念が定められようと、実行されなければ「絵に描いたもち」です。少しでも実現していけるよう、全力を尽くしてまいりたいと思っております。